

ごあいさつ



特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
理事長

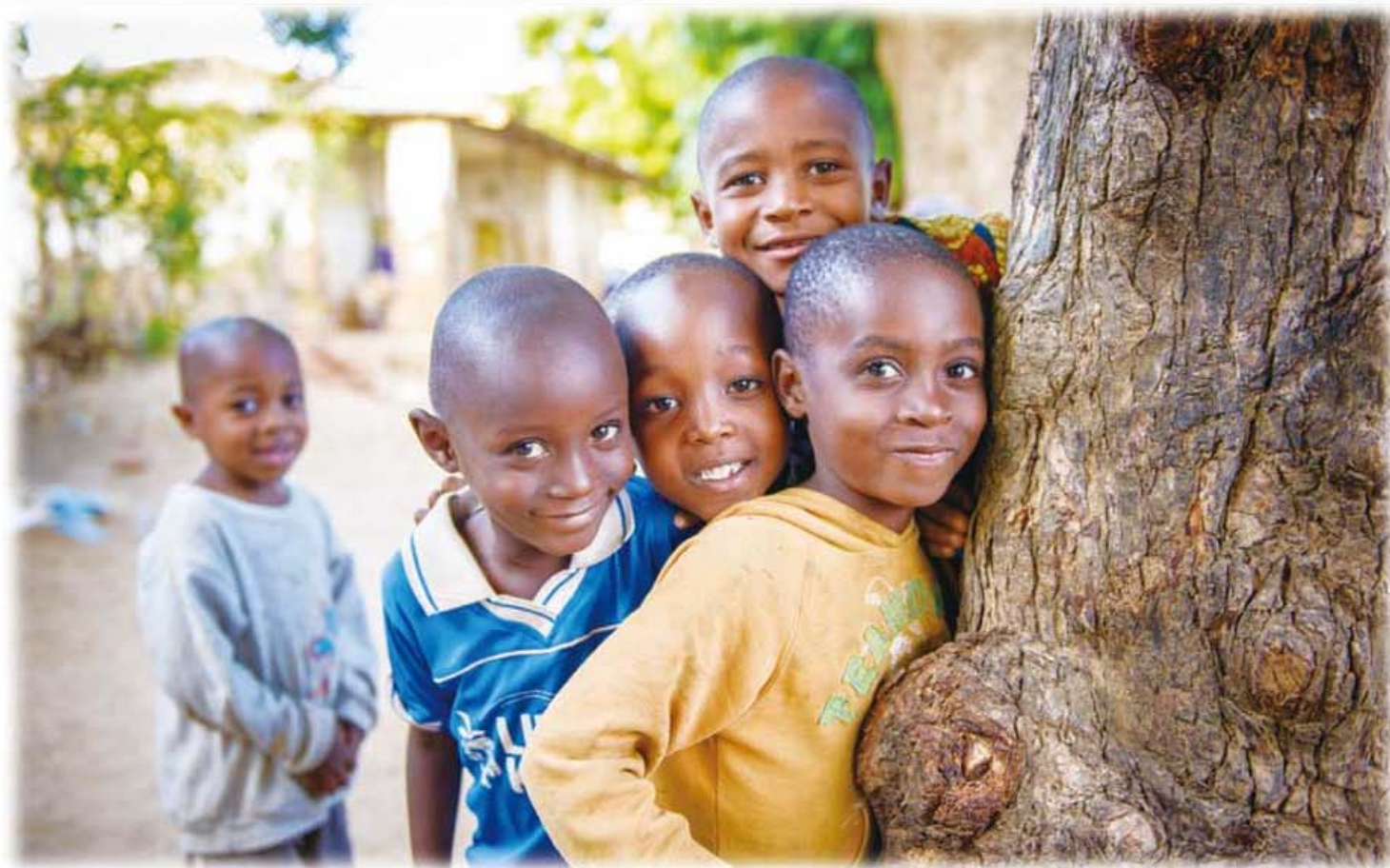
榊原 寛

2015年9月、次の15年間で国際社会が目指すべき「持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals)」が、国連で採択されました。貧困、飢餓、教育にとどまらず、気候変動や平等の問題解決を目指し、17の目標が誕生しました。しかも、途上国だけでなく先進国も目標達成の義務を負います。世界が一致しなければ達成できない意欲的な目標に向かって、世界は動き出しました。テロの脅威、シリアや南スーダン等の難民問題、ネパールを襲った天災等、世界は休まる時を知りません。しかし、SDGsの名のもとに国際社会が協調したこともまた事実です。私たちはその事実を信じ、歩みを進めなくてはなりません。

「この子を救う。未来を救う。」ワールド・ビジョン・ジャパンのロゴマークに光る言葉です。一人の子どもの健やかな成長、そして平和が実現されなければ、未来は遠のきます。今年も、一人でも多くの子どもたちが豊かないのちを生きられるよう、世界の目標を見据えつつ私たちができることを一生懸命に積み上げてまいります。

支えてくださる皆さまに心から感謝し、年次報告書をお届けいたします。

今後とも、皆さまの深いご理解と温かいご支援を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦

本年は、団体として取り組む「3カ年計画」の一年目でした。活動の柱に据えた目標の中には、「厳しい経済環境の中でも支援者を拡大し、より多くの支援を届ける」というものがありましたが、経常収益は49億8,302万円（前年比9%増）にのぼり、51,995人のチャイルド・スポンサーの皆さまをはじめ、多くの方々とともに子どもたちへ支援を届けることができました。

また、「より質の高い事業を実施し、より多くの子どもの生活向上を目指す」という目標に対しては、保健や水衛生部門の支援方針をまとめ、事業の質向上に取り組みました。

さらに外務省や国際協力機構 (JICA)、国連世界食糧計画 (WFP) 等との連携事業や、シリア難民危機やネパール大地震に対する緊急人道支援を通じて、多くの子どもの生活向上に貢献できました。

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動を通じて、日本は自国の利益だけを考えるのではなく、世界に貢献しようとする市民や団体がいることを具体的に示すことができたのではないのでしょうか。来る年度も、円安をはじめ厳しい経済状況が続くものと心得ますが、スタッフ一同、さらなる改善とイノベーションに挑んでまいります。